

殺菌剤

デラン[®]フロアブル

おまかせください！

果樹の基幹防除剤。

幅広い抗菌活性

かんきつ、なし、もも、りんごなど果樹の主要病害に高い活性を示します。また、もものせん孔細菌病のような細菌起因の病害にも有効です。

保護効果に優れる

胞子発芽を阻害する作用が強く、優れた保護効果を示します。

耐雨性に優れる

耐雨性、残効性に優れた剤です。

耐性菌が発達しにくい

耐性菌が発達しにくく、他薬剤で効果が低下した病原菌にも安定した効果を示します。



©—BASF社の登録商標

□・BASF

We create chemistry

■適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジチアノンを含む農薬の総使用回数		
かんきつ	黒点病	1000~1500倍	200~700 ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	そうか病・炭疽病(さび果)	1000倍							
りんご	輪紋病	1000~2000倍		収穫60日前まで					
	モニリア病・斑点落葉病・黒星病・炭疽病								
かき	黒点病・褐斑病	2000倍		収穫90日前まで				5回以内	5回以内
	炭疽病・落葉病・うどんこ病								
もも	せん孔細菌病	600~1000倍		収穫7日前まで	4回以内		4回以内		
	灰星病・ホモブシス腐敗病	600倍							
	黒星病	600~1000倍							
	縮葉病	1000倍							
ネクタリン	せん孔細菌病	600~1000倍		収穫14日前まで	2回以内		2回以内		
	灰星病・ホモブシス腐敗病	600倍							
	黒星病	600~1000倍							
	縮葉病	1000倍							
うめ	黒星病	1500~2000倍	収穫60日前まで	4回以内	5回以内				
	すす斑病	2000倍							
なし	黒星病・黒斑病・輪紋病・赤星病・疫病・炭疽病・心腐れ症(胴枯病菌)・黒斑細菌病	1000倍	収穫60日前まで	4回以内	5回以内				
	枝膨病・べと病・黒とう病・晩腐病	200倍							
ぶどう	黒とう病・晩腐病・つる割病		200倍	落弁期まで 但し、収穫75日前まで	2回以内	3回以内 (休眠期は1回以内) (生育期は2回以内)			
	黒とう病・晩腐病	200倍	休眠期	1回					
いちじく	そうか病	1000倍	収穫75日前まで	3回以内	3回以内				
おうとう	褐色せん孔病		収穫終了後~ 落葉期まで						
			いちご	100~300 ℓ/10a	育苗期	2回以内	2回以内		
せんりょう	炭疽病			200~700 ℓ/10a	発病初期	3回以内	3回以内		

●なしに使用する場合は、本剤は4回以内の散布ですが、ジチアノン剤としては合計5回以内で散布できます。なしに使用する場合は葉面液肥との混用はさせていただきます。

▲効果・薬害等の注意

- 本剤は分離を防止するため、静置時は粘度が高く、振れば容易に粘度が下がるように処方されているので、必ず振ってから使用してください。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさせていただきます。
- かんきつに使用する場合は次のことに注意してください。
 - 1)開花期以降のマシン油乳剤との混用散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。また開花期以降に本剤を使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日程度あけてください。
 - 2)夏期以降の散布は果皮に薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
 - 3)炭疽病(さび果)に使用する場合は、感染期に約1ヵ月の間隔で発病前に予防的に散布してください。
 - 4)収穫後長期間貯蔵する中晩柑に使用する場合は、貯蔵中、果皮に斑点が発生することがあるので、散布をさけてください。
- りんごのモニリア病に使用する場合は、多発条件下では所定希釈倍数内の高濃度で使用してください。
- ハウス栽培のなしに対しては、薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 機能性展着剤(アプローチBIなど)の加用は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- ぶどうの黒とう病に使用する場合は、発芽前~新梢伸長期に予防的に散布するのが効果的です。ただし新梢伸長期の散布は葉に薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- いちごおよびせりょうに使用する場合は、新葉に薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 蜜に対して影響があるので、周辺の菓業にはかからないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

このチラシの記載内容は2020年8月現在のものです。

▲安全使用上の注意

- 医薬用外劇物。取扱には十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服の交換をってください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
- 夏期高温時の使用をさけてください。
- 施設内で使用する場合は、窓等を開放し十分に換気してから施設内に立ち入ってください。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 魚毒性: 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼および海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺の使用はさけてください。水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管: 直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記載しましょう。

